

さくらんぼ

この情報紙は、“さくらんぼ”のカタチに重ね、女性と男性と一緒に並んで“実”となり、その“実”が繋がり“房(男女共同参画社会)”になってほしいという願いから名づけられました。

今回の情報誌は、昨年末に開催された「男女共同参画推進フォーラム」などについてお伝えします。



▶ 震災支援の現場で見た被災女性特有の問題― 「男女共同参画推進フォーラム」

市内7つの女性団体でつくる“女性ネットワークえにわ”が主催の「男女共同参画推進フォーラム」が、昨年11月11日、恵庭市民会館中ホールにおいて開催されました。

今年は、仙台市を拠点に活躍するNPO法人イコールネット仙台代表理事の宗片 恵美子さんをお招きして、「東日本大震災からの学びを～活かそう 育てよう 未来のために～復興・防災のプロセスに女性の声を」と題した講演会を開催。会場には、地域防災に携わる人やボランティア活動をしている人など約100人が訪れました。

宗片さんは、阪神・淡路大震災での教訓を基に、ひとり親世帯や老老介護世帯の避難後のケアとサポートについて、東日本大震災のずっと以前から、女性目線の対応を防災計画に盛り込む活動をされています。

その最中に発生した東北地方太平洋沖地震。「あの激しい混乱の中で、自分たちの活動がどれだけ活かされたのかはわかりません。」と前置きしたうえで、避難所で被災女性が直面した事例を紹介いただきました。

▶ 女性を中心とした支援

避難所には、被災当初には約1,000人、その後は200人から300人を超える被災者がいたそうです。ライフラインは寸断し、すし詰め状態の避難所では、寝るスペースも、寒さに耐える毛布も衣類もない。何もない避難所生活は、まさに我慢との戦い。男性も女性もそれぞれに不自由さがあり、日が経つにつれニーズの違いが出てきたと宗片さんは話します。

そんな中、宗片さんらイコールネット仙台のメンバーは、被災女性からの「着替える場所や授乳場所が欲しい」、「女性専用物資が欲しい」などの声を受け、女性への支援を中心に行うことにしたそうです。

宗片さんらの支援の一つに、被災女性たちの洗濯物を預かり自宅で洗濯して届ける“洗濯代行ボランティア”がありました。当然、避難所には洗濯機などありません。震災から1か月が経過したころ、ようやく避難所に洗濯機が設置されましたが、男女別の物干し場がなく隠したい洗濯物が干せないことも被災女性の悩みだったことから、こうした支援を続けたといいます。

“些細なこと”と感じる人もいるかもしれませんが、日常生活における“ちょっとしたこと”が、避難所生活という非日常の中では、犯罪に繋がってしまうこともあるのです。

▶ 女性リーダーの必要性

東日本大震災では、避難所運営などで女性への配慮不足が指摘されています。ひとり親世帯や介護世帯、障がい者へのケアのほか配偶者への暴力など、報道されない数多くの問題も起こっていました。



乳幼児がいる世帯では夜泣き、介護世帯では設備や介助の問題で周囲に気を遣い、「迷惑をかけるから」と避難所を出てしまうケースがありました。避難所がこのような困難を抱える人たちを“受け入れられない”状況は大問題です。避難所は障がい者にとって使いやすいか、近所には高齢者や介護が必要な人は何人いるかなど、日々の生活と地域に深く関わり、いざという時に何が必要かを知るのは、多くが女性なのです。

実際、避難所運営を担った地域リーダーも支援団体なども、多くは男性でした。女性リーダーはまだまだ少ない。「女性は、マンパワーはあるがリーダーシップはない。だからこそ女性の人材育成が必要です。」と宗片さんは話します。緊急時には、従来の性別役割分担意識のままでは解決しないトラブルが次々と起きます。トラブル軽減のためにも職場や学校、町内会などあらゆる所で、女性の視点を取り入れるために女性の参画が求められています。



市の附属機関へ さらなる女性委員の登用を 恵庭市男女共同参画審議会

昨年12月20日、恵庭市男女共同参画審議会を開催し、平成24年度に市が実施した事業のうち、子どもから高齢者まで、自分らしく生き生きと過ごすために実施している男女共同参画関連事業の精査と、市の附属機関における女性委員の登用率について、審議と検証を行いました。

女性委員の登用率では、平成23年度が30.35%、平成24年度が27.70%で、比較すると2.64ポイントも減少しています。これは、委員総数65人のうち53人が女性である附属機関が、役割を終えて解散したことが大きな要因です。委員からは、女性委員のさらなる登用率向上にむけて、庁内での周知方法など取り組み改善が求められました。

詳しくは、市ホームページで、審議会の会議録を公開しています。

活動へのスタートとして またツールとして学ぶ 「女性の活動ステップアップ講座」

今月、新規事業として、これから活動を始めようとしている女性や、市民活動をしている女性を対象に「女性の活動ステップアップ講座」を実施しました。

講師には、MIW(ミュウ)工房を拠点に取材、編集の仕事されている姉帯 美和子さんと、石狩教育局教育支援課で社会教育団体の指導を行う阿部 隆之さんをお招きしました。

講座は3回シリーズで、受講者同士のコミュニケーションの中からイベント企画を探す方法と、団体活動で起こった問題の分析と解決方法、最終回には、イベントポスターの作成についてワークショップ形式で学びました。

市では、この講座で学んだ手法を、新しい活動や活動団体内でのツールとして、またスパイスとして活用ほしいと考えています。

次年度もこの事業の実施を計画しています。開催時期などが決まりましたら、広報えにわや市ホームページなどでお知らせしますので、ぜひ参加ください。



発行 平成26年3月

恵庭市総務部総務課
総務・男女共同参画担当
TEL 33-3131 (内 2211)
FAX 33-3137

ご意見、ご感想をお寄せください。